

# グループワークから見る医療健康情報サービス

舟田彰  
川崎市立宮前図書館

地域；研修；グループワーク；ブレインストーミング；ファシリテーター

## 1 「医療・健康情報」を地域の情報拠点＝図書館から届けたい

「医療・健康情報」について公共図書館，さらに最近では患者やその家族，そして地域住民にも病院が「患者図書館」などを設置や地域公開し，地域の身近なところで情報が得られるような地域も見受けられる。すでに，先駆的な図書館では従来の実践を活かし，さらに充実したサービス展開が進めている。公共図書館においては，文部科学省から 2006 年 3 月に『これからの図書館像－地域を支える情報拠点をめざして－（報告）』が提言された。その中で「・・・住民が日常生活をおくる上での問題解決に必要な資料や情報を提供するなど、地域や住民の課題解決を支援する機能の充実が求められる」と記載されている。一方，図書館でサービスを開始する際に地域ニーズを踏まえ，どのように情報提供していけばいいのか，利用者視点のサービスにはどのような工夫が必要か，選書のスキル，予算の問題，他機関との連携など，様々な課題を抱えている現状がある。

## 2 抱えている課題に際し，様々な研修

図書館員が抱えている課題の一助になるため，各自治体の図書館や図書館協会，日本医学図書館協会，日本図書館協会健康情報委員会などで研修が実施され，教授的な学習と研修参加者でグループをつくり，個々で考えたことをポストイットに文字化し，模造紙の上に張り出して，ブレインストーミングで意見を整理する形態。私は特にグループワークを中心とした手法のパートを受け持つことが多くあった。

## 3 グループワークを担当して

グループワークでは参加者同士の課題の共有化，グループ内討議での気づきや考えの整理，サービスを具体化させるヒントを得るなど，机上であるが現場のサービスをイメージできるよう，進めるようにした。参加者が前向きになれるような課題設定を行い，「この内容は工夫すれば実施できる」と思うような，ポストイットも数多く見受けられた。

## 4 グループワークから得たアイデアなどをサービスへ活かすように促したい

数多くのポストイットに込められた一つ一つのアイデアや課題を軌道修正し，より具現化できるように促すか。「小さな実践」を多くサービスにつなげていくようなファシリテーターとして役割を発揮する機会があれば，担わせていただきたいと思う。そして，様々なポストイットの内容を発想の転換で地域ニーズに合った医療・健康情報サービスの実践に活かしていただきたい。